

医の道を すすむ!

親子トーク

少人数での授業と寮生活。同じ目標に向かって
同じ目標を持つ友達が全国にできたこと。

父 静香が、小さなころから医師志望だったことは知っていたけど、
医師を目指すために高校を選ぶなんて、考えもしなかったよ。

娘 病院の医師として、地域の人のために頑張るお父さんの背中を
見て育ったから。お母さんも医師だし、運命みたいなものを感じていた
の。医師になるなら早い時期にベストの選択をしたかったから。

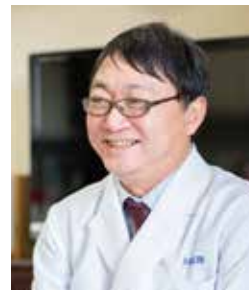
すごく元気そうだった。もう大丈夫だなんて安心したよ。

娘 学びはもちろんだけど、高校の特長は、やはり少人数での寮生活。
「裸の付き合い」というか、親密度がすごい。同じ目標を持っているし、
医療関係の家庭の人が多から、デリケートなことも、細かなニュア
ンスも分かり合えるんだ。

父 そして将来、寮の仲間たちは医師として全国各地、世界各国で
活躍する。とても心強いネットワークだね。

娘 一番大きなことは、仲間たちに刺激
されて良く勉強するようになったこと。
友人の中には、ただ医師になるというだ
けでなく「〇〇科の専門医師」になるとい
うしっかりとした希望を持っている人もい
て、勉強に対する心構えが違う。私も頑
張らなくちゃという気持ちになるよ。

父 切磋琢磨。仲間同士が互いに励まし合い、競争し合って、共に向
上しているんだね。そんな環境は、地元、普通の高校には絶対ない



切磋琢磨。励まし合い、刺激し合って。

父 そのお母さんが川崎医科大学出身。その縁もあったんだよね。

娘 中学校で学校案内のパンフレットを見たのが最初のきっかけ。
全国で唯一の医科大学附属高校で、医学部への進学率が90%以上。
この高校に行きたいと思ったんだ。それ
でお母さんに相談して。

父 お母さんのネットワークを通じて、
いい高校だとは認識していたけど。親元
を離れての全寮制だろ。内心ではそれが
心配だった。「やっていけるのかな」って。

娘 私もそれが不安だった。だけど入学
式前日の入寮のときから、皆がフレンド
リーで、優しくて。

父 最初がうまくいけば、と思っていたら、入学して1カ月たっても

ことだ。静香はとても恵まれていると思う。

娘 ドクターロードという授業で、お母さんと同じ「血液内科」の臨床
の先生にインタビューしたの。その先生が、患者さんの生命に関わる
仕事の大切さを話してくれて。そのとき思い出したのが、白石医院の待
合室に掲げてある、何枚もの感謝状。お父さんが地域の保育園や学校
からいただいたんだよね。「私も地域に密着して、地域の方に信頼され
る臨床医になりたい」と改めて思った。背中を見て育ったけど、今は
医師として働くお父さんやお母さんの姿を、正面から見つめている
気がする。

父 …。なんだか一人の人間として成長している気がするなあ。普通
だったら大学で養う、医師としての心構えや覚悟が出来つつあるよう
な。その初心を忘れずに、まずは医科大学に入学してください。

娘 はい。この高校で、切磋琢磨して、頑張ります。



地域に密着して、地域の方に
信頼される臨床医になりたい。

一人の人間として成長している。
それがこの高校での一番の収穫かな。

(娘)白石 静香さん

川崎医科大学附属高校3年。福岡県出身。
高校の寮では「寮役員」を務める。

(父)白石 恒明さん

久留米大学医学部卒業。17年間大学及び大学病院
に奉職。医局長を最後に、故郷の医療法人を継ぐ。

